

予備校に通い始めて2週間が経ちました。受験生の皆さんはスタートラインに立ち、ようやく一歩を踏み出したところです。4月の受講面談では各担任と志望大学について話をさせていただきました。保護者の方々におかれましては、大学入試の「入り口」だけにとどまらず、将来どのような人材が社会で求められるのか、そのためには今からどんな教育が必要なのか、気になると思います。大学入試センター試験の廃止や、国立大学の文系学部の縮小といったニュースは記憶に新しく、さらには奨学金負担をめぐる不都合も在学期間にとどまらない長期的な問題になりつつあります。私達が受験生にしてあげられることは何でしょうか。

日本が世界経済のなかでキャッチアップの過程にあるときには、海外の技術を模倣し習得する能力が必要だったといえます。英語で必要な能力も読解力重視でよかったわけです。その結果、多くの場合、地頭の良さが基準値を超えていることが重要と考えられ、大学で何を勉強してきたかよりも、入学した大学の難易度ランキングによって企業による採用が行われていました。

一方、既にキャッチアップの段階を過ぎ、自分たちで新しい技術を生み出す必要のある現代では、地頭の良さだけではなく、何を生み出せるのかが見える人材への需要が高まってきました。新たな発想のベースとなりうる学問は新しい人材需要の重要な要素のひとつと考えられるので、学問に対していかに真摯に取り組んできたかどうかで企業が学生に下す評価が分かれるでしょう。また、人工知能(AI)やウェアラブル端末の開発・発展においては、従来企業の採用対象となりにくかった美術・芸術分野からの人材参入が不可欠になるでしょう。何をどう学んできたのかが重要な要素になり、大学の名前だけで採用が決まる時代は終焉を迎えています。

ここで、金沢大学の入試についてお話ししたいと思います。平成28年度入試では、英語前期試験が従来の出題傾向から様変わりし、能動的に英語を扱う能力が試されました。日本語で解答を作る問題は姿を消し、その代わり問題文も指示も解答も全て英語となりました。過去問演習による習熟だけでは太刀打ちできなかつたでしょう。しかしこの変化を狭義の「英作文」からの出題ととらえるだけでは、いくら短文の英作文練習をしても意

味がないかもしれません。それは大学が求めている学力でも、社会が求める対応力でもないからです。

これからの時代を survive するために、育英予備校でどんな勉強をしていってもらいたいか。「何かを学ぶ」「学んだことから応用し創造する」これはまさしくいま現在、受験生が予備校で身につけるべきスキルです。漠然とした表現ですがこれが指しているものは、実は日常の授業参加や課題提出で予備校講師が生徒のみなさんに要求しているスキルです。ただ期日に間に合わせて出すだけ、ただ授業時間に教室にいるだけになってほしくありません。変化にはショックがつきものです。浪人という契機に、新たな期待を背負っていけるよう、自らを変革していきましょう。職員も一丸となって応援しています。



この日を忘れないで！(4/8入学式)

## 保護者オリエンテーション催される

4月9日(土)の「保護者オリエンテーション」には150名を超える保護者の皆様にご参加いただきました。アンケートには、「予備校が決まってようやく勉強を再開しました」「生活習慣がまず大切なことがよく分かりました」「浪人生は家族にとっても初めての経験なので話が聞けて良かったです」という内容が目立ちました。保護者の皆様の思いをしっかりと受け止めて指導に生かしてまいります。

## GW・5月スケジュール

4/29(金)～5/5(木)

自習室利用 10:00~18:00

- 5月6日(金) 通常授業再スタート
- 5月21日(土) 第1回校内テスト(国・数・英)
- 5月27日(金) ソフトボール大会